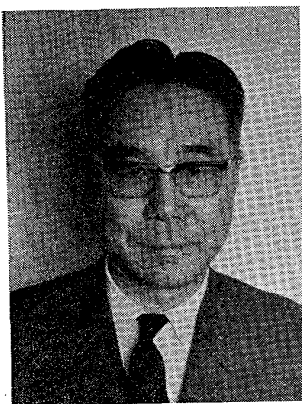


随 想

日本鉄鋼業の今後の進路について

吉 崎 鴻 造*



戦後 20 年間の日本鉄鋼業のめざましい発展については、いまさら言をあらたにするまでもない。かつては国力の象徴として、世界第 3 位の精強な海軍力をあげることが常であつたが、いま日本列島の海岸各地に、つぎつぎと建設された新鋭製鉄所群は、何よりも力強く日本の重工業の実力を世界にしめしている。海外各国を巡つて見ても、わが国の優良な鉄鋼製品が、いたるところに進出しているのを見ることができる。またわが国の技術水準の高いことについても、ようやく世界の認識が高まり、各国から視察者が絶えないばかりか、欧米各国への技術輸出が相ついで行なわれているのは、まことによるこぼしい。

しかしながら、中国、インドなどをはじめ新興工業国家は、こぞつて最新の製鉄設備の充実を最重点的に推進しており、欧米の鉄鋼業界は、これまた最新の技術を採用した大製鉄所の新設・拡充につとめて、わが国から優位を奪いかえそうとしている。

またアルミニウムなど他種の金属や、各種の新しいプラスチックは、すでに鉄鋼の競合製品として各分野に進出しているが、供給者ならびに使用者のめざましい技術革新によつて、今後さらにいちじるしい躍進をとげるであろう。

順風満帆のいきおいで発展をとげてきたわが鉄鋼業界は、一昨年いらいの不況によつて、はじめていささか沈滞の機を与えられたが、今春以降のわずかな市況回復によつて、またもや無反省な拡張ムードに移行するようないことがあるとすれば、はなはだ寒心に耐えない。他の業界では「現在の製品の大半は、10年後には陳腐製品となり斜陽化する」ということが常識となつているが、鉄鋼業界は、はたして 10 年後に王座を占めるような新規製品を、数多く開発しつつあるだろうか？ また無計画な拡張により在来製品をさらに量産しても、国内外における需要開拓に、それほど多くを期待できるであろうか？ 私には、これらの諸点について、かなり悲観的な予測しかできない。

ここにおいてわれわれは「世界の市場は今後いかなる新製品をもとめているか、また日本鉄鋼業界はこれに対して何を寄与できるか」ということをきわめて真剣に考えなおさねばならない。もとよりこのためには、異常な努力が必要であろうし、またしばしば挫折することをも想定せねばならないが、それにしても、このような考察による目標設定にもとずき、新しい製品とその用途を開発してゆくことによつてのみ、わが鉄鋼業は沈滞をまぬがれて、遠い将来まで発展することができるであろう。これに反し、いままでのようなラフな市場予測によつて、他社、他国と同様な設備のデュプリケートのみに狂奔しているならば、やがてかつての大正末期・昭和初頭のような鉄鋼業の不振がおとずれるであろう。

この意味における市場の開発にあつては、技術研究・開発関係者の努力が必要なことはいふまでもない。このことがわが国において喧伝されてよりすでにひさしいが、なお不十分な点がまことに多いようである。新製品・新分野の開発は、簡単にあげつらうことのできるほど簡単なことでは決してないことを、ここにあらためて強調したい。このためには、多年の技術経験の蓄積と、正しい開発目標の設定と、指導者の不退転の意志と、関係者の活発な討議ならびに緊密なチーム・ワークとが必要である。しかも海外の各方面でも、かならずや同様の目標にむかつて懸命の努力がなされているであろうし、たえず情報を入手するようにつとめ、適切な状況判断によつて、1日でも早くゴールに入るように心がけねばならない。まことにきびしく長い道程ではあるが、これによつてのみわが国の技術はたえず進歩し、全世界からよい評価をうけることができるのである。

* 本会監事 東洋鋼板(株)常務取締役、東洋製罐(株)取締役
東洋製罐・東洋鋼板総合研究所長 工博

日本の技術水準はすでに相当の成熟向上をとげており、新しい技術を生み出すべき基盤はすでに備わつたといえるであろう。いま希望されるのは、目標を洞察し、これにむかつて総力を結集することのみである。これにつけても、有用な諸研究を国家的見地に立つてすみやかに進めるために日本鉄鋼協会の正しい指導力が行使され、基礎・応用の両方面にわたって活発な研究活動が励起されることがとくにのぞましい。

私の関係している容器業界ならびにその材料の供給業界においては、近来ことに技術革新のテンポが促進せられ、つぎつぎに新容器・新材料が出現しており、過去 150 年間にわたって、食品貯蔵容器の王座を占めていたブリキ缶の地位も、アルミニウム缶や tin free steel 缶の進出によつて、今後大きな変化の起こり得ることが期待される。最近この点につき、世界各国の関係専門家たちと、それぞれ詳密に意見交換をおこなう機会を得たが、彼らのすべてが、はつきりした長期的展望のもとに、この問題に熱意をもつて取りくんでいることに、強い感銘をうけた。またいわゆる国民性の特色は、この同一テーマのとらえ方にもよくあらわれており、フランス人は軽妙に核心を洞察し、ドイツ人は着実に新事実にせまり、イギリス人は重厚で形勢の判断にすぐれ、アメリカ人は率直かつ進取的であるという印象をうけた。日本人のこの分野における貢献と、すぐれたチーム・ワークによるパイオニア的活動力については、彼らのすべてが敬意を表するところであり、今後このような新技術の開発にあつては、各国の技術の特長を生かして、ひろく国際的協力活動をおこなうことが、もつともよいように思われる。

このことは、さらに広く鉄鋼の全技術分野にわたって考えても成り立つことであり、今後の世界鉄鋼業は、各国の総合的生産性と国民の志向とを勘案し、それぞれの特長をもつともよく発揮しつつ、真に全世界が必要とする優良な品種を開発し供給するために、適正な技術的協調をおこなうことが必要であろう。その暁において日本鉄鋼界は、つねに進取的に新技術の開発につとめ、鉄鋼技術研究の全分野にすぐれた貢献をなすことによつてのみ、世界の賞讃を得ることができるであろう。